

様々な視点から見ることで、  
 新しい価値を生み出す。

神成 淳司

豊かな自然に育まれた多彩な食材。  
 沼津に誇りを持っています。

頼重 秀一

**【神成】** 生産と流通の話にも通じるのですが、異なる分野の人たちが集まり新しい価値を生み出すことを、オープンイノベーションといいます。  
**【市長】** オープンイノベーションは、アオイプロジェクトの考え方の基本です。詳しく教えて下さい。  
**【神成】** そうなんです。アオイパークでは、異なる分野の熟練者が集まり、多角的に物事を捉え、今までにない新しい角度からアプローチすることでイノベーションが生まれています。理学研究所も慶應義塾大学も、農業を専門に研究している訳ではありませんが、それぞれの技術が農業に活かされています。  
**【市長】** なるほど。オープンイノベーションという言葉こそ意識したことはありませんが、まちづくりも同じかもしれません。  
**【神成】** 行政や市民、企業や団体も、それぞれの道の熟練者たちです。そうした主体が集まり意見を交わすことには意味があると思います。  
**【市長】** 市では、市民の皆さんが主体的にまちづくりに参加してもらえようという機会を用意して意見を頂くようにしています。すると、行政だけでは出てこない発見や発想が生まれるんです。

**オープンイノベーションで生まれる新たな価値**



**【神成】** 私は沼津の魚を食べて育ちましたが、魚はもちろん、沼津は食べ物が本当に美味しいですね。  
**【市長】** 豊かな自然に恵まれ、農水産物の種類が豊富なことは沼津の誇りです。魚やみかん、お茶はもとより、最近では「するがの極」というお米をブランド米にしようという取り組みや、戸田で水揚げされる深海魚は、その個性

**沼津の農水産物と付加価値**



神成 淳司(しんじょう あつし) 博士(工学)。沼津東高校卒業。慶應義塾大学環境情報学部教授、一般財団法人アグリオープンイノベーション機構統括ディレクター等を併任。趣味は茶道とロードバイクに乗ること。

**人をつなぐ「場」**



**【神成】** そうなんです。それこそがオープンイノベーションのよさですね。ぜひその考え方で進めてほしいです。  
**【市長】** なるほど、最新技術を使いブランド価値を上げる、ですか。  
**【神成】** はい。さらに、生産者がブランドをかけて作ったものを消費者に届ける際に、観光用や食用としても全国的に注目を集めています。  
**【神成】** 素材は存分にありそうですね。そこに「付加価値」を付けることがカギになると思います。  
**【市長】** 付加価値とはどういうことでしょうか。  
**【神成】** 例えばみかん。収穫までの過程の中に、果実を間引く摘果作業があります。どの実を間引くかが重要で、生産者の経験と勘に委ねられていたこの作業を、私たちは最新の情報科学の知見から、経験が少ない人でも早期に学ぶことができる仕組みを構築してきました。このような取り組みは、地域全体の底上げになり、ブランド価値の向上や生産者の誇りにもつながると思います。  
**【市長】** なるほど、最新技術を使いブランド価値を上げる、ですか。  
**【神成】** はい。さらに、生産者がブランドをかけて作ったものを消費者に届

者と飲食店経営者、販売者をつなぐマッチングイベントを開催しています。  
**【神成】** まさに「場」の提供ですね。  
**【市長】** はい。それぞれの優れた専門性を活かせるつながりがあることで、より可能性が広がると思っています。  
**【神成】** そのとおりですね。具体的にはどういったことをしているのですか。  
**【市長】** 沼津の食材を活用したメニューを、参加した生産者、飲食店経営者、販売者に試食してもらっています。参加者は食材の特性や扱い方を知ることができ、それぞれの専門性を活かして食材について話し合う機会になっています。そこからオリジナルメニューが生まれたら嬉しいですね。  
**【神成】** 提供した「場」がプレイヤー同士をつなぐ基盤になったんですね。素晴らしい取り組みだと思います。  
**【市長】** ありがとうございます。今後も継続していければと思っています。

ける際に、それが沼津市西浦で採れた「本物」の西浦みかんということを証明することで、付加価値が生まれます。  
**【市長】** 先生ならではの発想を聞くことができてとても参考になります。  
**【神成】** 実は私、専門は農業ではなく情報科学なんです。農業を学んでいなかったことで、「付加価値」から農業を捉え直す発想ができました。  
**【市長】** そうだったんですか。なるほど、情報科学という新しい視点からのアプローチが、農業分野でできたということですね。



頼重 秀一(よりしげ しゅういち) 沼津市出身。第32代沼津市長。沼津市議会議員、沼津市議会議長を経て、2018年から沼津市長を務めている。座右の銘は「和をもって貴しとなす」。